

# 存在価値と社会からの信頼を高め、 日本の医薬品卸の役割と機能を 世界へアピールする

インタビュアー／  
林 裕彦 (広報・研修委員会委員)



5月27日の第9回通常総会において、鈴木賢顧問が新会長に就任した。

そこで、鈴木新会長に就任に当たっての抱負、  
医薬品卸を取り巻く状況や卸連合会の活動の方向性などについて伺った。

鈴木新会長は、総会で決議された「コンプライアンス宣言」を踏まえた対応に努めるとともに、  
「過去からの取組みの継承」「現下の諸課題への適切な対応」「将来へ向けた道筋の提示」に  
取り組むとし、その具体的な内容や思いを語られた。

そして、今年10月に開催されるIFPW東京総会では、  
世界に誇れる日本の医薬品卸の役割や機能をアピールしたいと強い意欲を示された。

日時：令和3年6月18日（金）13：30～14：30 場所：(株)バイタルネット本社（八乙女ビル）

## 社会環境の変化に対応する

**林** 5月27日の第9回通常総会で新会長に就任されました。まずは、会長に就任されたご感想をお聞かせください。

**鈴木** 新会長と言いましても再登場ですが、8年前に就任したときとは少し違う戸惑いを感じています。一つには、新型コロナ禍でかつてない社会環境や業界を取り巻く環境の変化があります。それから、コンプライアンスの問題があり、また中間年の薬価改定の導入に伴い、毎年、薬価調査・改定が実施されることとなるため、新たな対応を考える必要があるなど、これまでとは違った問題に直面しています。スペシャリティ医薬品など高額な薬価の品目増加や後発医薬品の使用促進に伴う低額な薬価の品目増加により、製品構成も変わってきており、その意味では、様々な環境変化の中で業界が少し疲れているのではないかと懸念しています。そのため、少し頭の整理もしながら今後の活動に取り組まなければならないと考えています。

もう一つは、次世代へのバトンタッチへ向けた一つの流れでもあるという思いがあり、スムーズに引き継ぐために医薬品卸業界の活動をいかに整備し、どのような方向性を打ち出せばいいのか、会長就任後まだ日も浅いですが、そのようなことも頭に描きながら、今後の活動を進めたいと考えています。

## 環境の変化に応じた 流通改善が不可欠

**林** 会長就任に際し、「総会で決議されたコンプライアンス宣言を踏まえた対応に努めることはもとより、主に三つのことに取り組んでいく」と述べられました。その三つの取組みのうち一つ目は、「過去からの取組みの継承」の中で課題とされている流通改善についてのお考えをお聞かせください。

**鈴木** 私が8年前に会長に就任したときは、前任の

別所会長から「流通改善というのは一丁目一番地だよ」と言われて受け継ぎました。流通改善を進めるに当たって、極めて明快な形でバトンを受けたわけです。そして、会長就任時の6年間に流通改善を進めました。しかし、昨年からの新型コロナ禍によって流通改善が少し停滞してしまったのではないかという気がしています。

流通改善はこれからの医薬品流通に不可欠であり、最重要な取組み課題です。ただ、これまでのような進め方でいいのかといった検証は必要であると思います。厚生労働省が「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」を作成しましたが、このガイドラインの内容を関係者全員で改めて理解し、必要に応じてガイドラインの見直しを考えていくことも重要なことではないかと思っています。

どうしても目先の問題にとらわれてしまいがちですが、将来を見据えることが重要であり、いまの医療制度、薬価制度の下での薬のあり方や医薬品卸の役割と機能を考えた上で、流通改善の必要性を再確認したいと思っています。

**林** 環境が変化していく中で、これまでのやり方とは違う、変化に応じた流通改善の取組みが必要だということで、継続して取り組む重要性について再認識いたしました。

## 医薬品卸の役割をしっかりと伝える

**林** 二つ目は、「現下の諸課題への適切な対応」として、新型コロナワクチンの配送業務についてのお考えをお聞かせください。

**鈴木** 新型コロナワクチンの配送業務については、自治体ごとにより違うという印象を持っています。例えば、東京と仙台の手順は異なっています。ただ、共通するのは、国や自治体等の新型コロナワクチン接種事業に全面的に協力し、医薬品卸としての業務をきちんとやり遂げることだと思います。

10年前の東日本大震災では、各被災地から医薬品を求められ、医薬品卸が対応しました。熊本地震のときも、北陸の大雪で物流が止まったときも

そうでした。最近では水害が頻発しており、その度に医薬品卸はその機能を十分に発揮していると思います。新型コロナワクチンの配送も同じで、私たち医薬品卸が果たしている役割を国民の皆さんへきちんと伝え、医薬品卸の存在価値を知っていただく必要があります。災害時でも医薬品が届くのは当たり前のように思われがちですが、そこには使命感に支えられた医薬品卸の働きがあります。東日本大震災や熊本地震などで物流が途絶えている中でも、医薬品卸だけは動いていました。医薬品卸は災害時でも身を粉にして働いており、医薬品流通を通して日本の医療を支えていることは間違いありません。

ただ残念なことに、医薬品卸が公的に担っている役割、社会に貢献している働きぶりが、国民や地域の皆さんに伝わっていません。医薬品の安定供給において医薬品卸が果たしている役割と働きを国民の皆さんに知ってもらえば、私たち医薬品卸の存在も評価されるようになると思っています。

**林** 医薬品卸の社員は、災害時に自分たちが被災していたとしても医薬品の供給を最優先にしています。それは医薬品卸の社員全員が使命感を持っているからだと思います。災害時には自衛隊だけが薬を届けているかのように報道されることがありますが、そこには必ず医薬品をお届けしている医薬品卸の存在があります。私自身も東日本大震災では被災現場での医薬品卸の働きを目の当たりにしました。自然災害でもパンデミックでも医薬品がきちんと届いているのは医薬品卸が配送しているからだということを知ってもらい、きちんと評価してもらうために情報発信が重要だというお話は、現場で汗を流している私たちにとって大変励みになり、勇気づけられるお言葉だと思います。

### 薬と薬価の尊厳性を 考えることが重要

**林** 次に、同じく「現下の諸課題への適切な対応」について、中間年の薬価調査や薬価改定で医薬品卸を取り巻く環境は厳しさを増しそうです。その

ことについてのお考えをお聞かせください。

**鈴木** 渡辺前会長は、現行の薬価制度において薬価がだんだん下がっていくことによって、私たち医薬品卸の流通体制はダメージを受けていると訴えられました。しかし、そのことがなかなか理解されていないと感じています。最近では、安定供給面で一部ジェネリックメーカーの自主回収問題などがあり、私たちの努力だけでは安定供給を果たせない問題が出てきています。

そのような中で、私たち自身も現行の薬価制度の下での薬の尊厳性、薬価の尊厳性を改めて見つめ直す時期にあるのではないかと感じています。この薬にどうしてこのような薬価がついたのかを考え、尊重して取り扱うことが必要だろうと思うのです。私たちは、価格をつけて流通するだけでなく、薬の役割を尊重し、薬の尊厳性を損なわない販売に取り組んでいかなければ、薬自体の価値は失われてしまうでしょう。医薬品卸の存在価値を高めるためにも、薬の尊厳性を守ることが不可欠なのです。

その上で、なぜ薬価改定が行われるのか、またどのような販売方法にしなければならないのかを考え、最終的には安定供給につながるように取り組んでいく必要があると考えています。

**林** 薬価の尊厳性という言葉はとても印象的でした。そういった本質をしっかりと踏まえた上での議論が重要だと改めて認識いたしました。

### 薬の変化に応じた 将来ビジョンを考える

**林** 三つ目である「将来へ向けた道筋の提示」についてお伺いします。これから大きな話題になると思いますが、医薬品卸の将来ビジョンも含めて、将来に向けた道筋についてのお考えをお聞かせください。

**鈴木** 薬は、私たちの生活に必要な不可欠なものであり、それを流通している医薬品卸も必要不可欠な存在であることは間違いありません。ただ、これまでと同じことを、同じように進めていけばい

いのかといえ、そうではないでしょう。社会環境は大きく変化しており、薬も変化しています。低分子薬から高分子薬になり、抗がん剤も日進月歩の状況にあって、医薬品卸の役割も変わってきています。そのことも踏まえて医薬品卸の将来ビジョンを考える必要があるでしょう。

## 世界に誇れる 日本の医薬品卸をアピール

**林** 続きまして、新型コロナウイルス感染症の拡大で開催が延期されていたIFPWの東京総会は、10月6日、7日に開催することが決定しました。今回はハイブリッドモデル（現地参加+オンライン参加+オンデマンド視聴）という形で開催されますが、現時点での準備の状況や会長の意気込みなどをお聞かせください。

**鈴木** 延期されていたIFPW東京総会は、リモート参加も含めたハイブリッド開催を予定しております。リモートは新型コロナ禍で一つの手法として定着していますので、ハイブリッド開催は現在の状況に最もマッチした形だと考えています。

ただ、新型コロナウイルスの感染拡大前は、東京総会において、日本の医薬品卸が担っている役割や機能、地域社会への貢献の高さなどを世界の医薬品卸の皆さんに直接胸を張って伝えたいと考えていました。また、日本の医薬品流通現場を知ってもらい、様々な関係者と情報交換や交流を図ってもらう絶好の機会になりますので、日本へ来て会議に参加したいという世界の医薬品卸の皆さんも少なくないのではないのでしょうか。そのため、日本の感染状況はどうなっているのかとよく聞かれます。

最近のニュースを見ると、マスクをしないで外出し、人出も多いニューヨークの街の様子などが流れています。今後、日本でも新型コロナワクチンの接種が進めば、いまより状況は良くなり、世界の皆さんにもIFPW東京総会に参加してもらえるのではないかと期待しています。

**林** 日本の新型コロナウイルスの感染状況を気に



### 鈴木 賢 会長

現行の薬価制度の下での薬の尊厳性、薬価の尊厳性を改めて見つめ直し、流通改善を推進していきます。

IFPW東京総会では、「革新を遂げる医療とともに進む医薬品卸」のテーマの下で、日本の医薬品卸の世界に誇れる取組みをアピールしていきます。

されている方は多いようですね。

**鈴木** 今後、オリンピックを境に感染状況が変わっていく可能性もあり、東京総会がどういう形になるのかに注視したいと思います。もともと、ハイブリッド開催であっても、日本の医薬品卸の素晴らしさはしっかり伝えるつもりです。

**林** 日本の医薬品卸の活躍を世界に認識してもらおう大切な場だという鈴木会長の思いが強く伝わってきました。日本でのIFPW総会の開催は29年ぶりなので、ぜひ成功してほしいと願っています。

**鈴木** 今回のテーマは「革新を遂げる医療とともに進む医薬品卸」であり、日本の医薬品卸の特色や世界に誇れる取組みをアピールしていきますので、皆さんにもぜひご協力をお願いします。

## 一つひとつの行動で信頼を高める

**林** 続いて、第9回通常総会では、卸連合会並びにその正会員及び会員構成員企業は、社会的責任と使命を意識し、誠実かつ確固たる倫理観に基づき、コンプライアンスをより一層強化するために「コンプライアンス宣言」を決議しました。その主旨についてお話してください。

**鈴木** 先般の会員構成員企業の独占禁止法違反は誠に遺憾であり、卸連合会としても大変重く厳粛に受け止めています。今回の違反によって医薬品卸にはコンプライアンスを遵守しない体質があるのではないかとされるのは極めて不本意なことであり、コンプライアンスをより一層強化しなければならないと強い決意を持っています。そのため、通常総会で「コンプライアンス宣言」を行いました。コンプライアンスの問題は、会員構成員の各企業が宣言に基づき、責任を持ってしっかり対応する必要があります。

また、先ほど流通改善の話をしたのですが、コンプライアンスの問題と流通改善の問題を一緒に捉えないほうがいいのではないかと思います。コンプライアンスはコンプライアンスの問題として捉え、流通改善は流通改善として進め、あるいは、安定供給は安定供給として努めていくなど、個別の問題としてしっかり対応していく必要があります。すべてをコンプライアンスとして捉えてしまうと、それぞれの問題の本質を見失い、取組みが拡散してしまうような気がします。一つひとつの問題をしっかりと捉え、それに対応していくことが大事ではないでしょうか。

**林** コンプライアンスだけでなく、流通改善や安定供給の問題への対応をそれぞれに考え、一つひとつ課題を解決していくことが、これからの医薬品卸売業界の未来につながるということですね。

**鈴木** そうです。「コンプライアンス宣言」を行ったからといって、医薬品卸の社会的信頼が回復されるわけではありません。行動に移し、また、災害時や新型コロナ禍における医薬品卸の働きを知ってもらうことで信頼が高まるのだと思います。

**林** 一つひとつの行動によって信頼を回復させることが大事だということですね。

## 「日日是好日」で 出合いを大切にする

**林** 最後に、プライベートなお話を少しお伺いします。大変ご多忙な毎日をお過ごしだと思いますが、仕事以外での楽しみ、趣味やストレス解消法などを教えてください。

**鈴木** 休日に会合が入ることはありますが、基本的に土曜日はゴルフ、日曜日はテニスを楽しんでいます。もっとも、歳ですので、土曜日のゴルフと日曜日のテニスを続けると、疲れが取れずに火曜日くらいまで疲労が残ってしまいます。ただ、それぞれに仲間がおり、休日の楽しみになっています。あとは毎日の晩酌でしょうか。

**林** 何をお飲みになられるのでしょうか。

**鈴木** 新型コロナ禍で飲みに行けなくなり、もっぱら自宅で飲んでいますが、ワインのボトルがどんどん空いてしまいました。運動で汗を流して、お酒も美味しく飲んでます。健康でいることは本当にありがたいと感じます。

**林** スポーツも晩酌も、ストレス発散に効果がありますね。

**鈴木** あまりストレスを溜めるタイプではありませんが。

**林** ただ、お立場上、気苦労も多いのではないのでしょうか。

趣味以外の話になりますが、大切にしてきた考え方や信念などを教えてください。

**鈴木** 人との出合いを大切にしたいということです。人生を語れる柄ではありませんが、人生とは人と人との出合いであり、人は一人で生きているわけではなく、出合いの中からのいろいろな物語が生まれてきます。人との出合いは「一期一会」で、大切にしたいと思っています。

**林** 会長もいろいろな人との出合いがあったと思います。仕事だけでなく、プライベートな出合いもあれば、地域の中での出合いも大切にされてい

るのではないのでしょうか。

**鈴木** そうですね。人を大切にすることと、あとは自分自身の中で大切にしているのは健康です。今回の新型コロナウイルスの感染拡大では、知り合いの中で感染し、また、亡くなられた先生もいました。私もこれまで何度か入院生活を送っており、健康の大切さを痛感しています。生きていく上では様々なことへの感謝が大事ですが、第一に健康への感謝を忘れてはならないでしょう。

**林** いまのお話からは、健康に対する会長の思いが伝わってきました。私たちは健康産業の一翼を担っていますので、まずは自らの健康に留意する必要があるということだと感じました。

ところで、会長がこれまで経験されてきた中で最も影響を受けた出来事、ターニングポイントになった出来事を教えてください。

**鈴木** 毎日いろいろな影響を受けています。今日は今日、明日は明日で、毎日の変化と出会いの連続です。毎回新たな問題にぶつかり、それに対応して乗り越えたり、前に進んだりして、それが生きる糧になっているのだろうと感じています。ですから、過去の出来事にとらわれるということよりも、「日日是好日」という思いの中で毎日を送っていくようにしたいと思っています。

**林** ありがとうございます。そのような日々の中で、最近印象に残っている本やメディアの情報などがあれば教えてください。

**鈴木** 前から観ているテレビ番組の一つに、日曜日の午後6時からNHK衛星放送（BS1）で放映されている「COOL JAPAN～発掘！ かつこいいニッポン～」があります。かつこいいクールな日本の文化を外国人が発掘し、その魅力と秘密を紹介する番組で、外国人が日本の素晴らしさを語り合っています。

**林** それは面白そうですね。私たち日本人が気づかない外国人から見た日本の特色や良さなどが紹介されるのでしょうか。

**鈴木** そうです。日本人として自信を持つていくことの大切さを再認識する番組だと思って観ています。

**林** 今度のIFPW東京総会にも通じるお話ではないのでしょうか。

**鈴木** ぜひとも、日本の医薬品卸が担っている役割や機能をアピールする良い機会にしたいと思っています。

**林** ありがとうございます。本日は、新会長に就任されて、流通改善やコンプライアンス、IFPW東京総会など今後の取組みについてのお考えや活動の抱負、さらにはプライベートについての貴重なお話を伺いました。医薬品卸を取り巻く環境は大きく変化していますが、そのような中で私たちのご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。



インタビューを終えて。  
鈴木賢会長（中央）、林裕彦広報・研修委員会委員（右）、オブザーバーとして出席した鈴木宏一郎（株）バイタルネット取締役兼執行役員（左）